

# 大社小だより

出雲市立大社小学校

平成23年11月28日（月）

11月の下旬から気温が下がり、風も強くなり寒くなってきました。先日、学校の教室等の暖房の試験運転をしたところ、教室や廊下がぼかぼかしていて、子どもたちも気持ちよさそうでした。本校の教室等の暖房は、夜間電力を使つての蓄熱暖房なので、ボイラーやファンヒーターと違って火災の心配がほとんどないので安心です。

さて、日の入り時刻が、明後日の11月30日（水）～12月12日（月）までが16時57分と一番早くなります。それを過ぎると少しずつ遅くなってきます。つまり、今頃が一番夕方が暗い時期となっています。

こういったことも踏まえ、11月から子どもたちに交通安全のため反射たすきの着用をお願いしたところ、ご家庭の御協力のおかげですっかり定着してきました。今後とも御協力をよろしく願います。

## 冬芝で見事な校庭

5年生が蒔いた冬芝もよく育ち、11月からは、校庭が自由に使えるようになりました。子どもたちは昼休みなどにたくさん校庭に出て、サッカーや野球、ドッジボールなどを楽しんでいます。中には、芝生の上で寝そべっている子どももいます。少々寒くても元気に遊んでいます。風が少し強くても砂ぼこりも上がらず、安心して遊べます。



これからも、子どもたちが元気で校庭で遊べる日が多いことを期待しています。

## 西部ブロック連合音楽会

11月2日（水）に出雲市西部ブロック小中学校連合音楽会が、うらら館で行われました。大社小学校は午前の部で5年生と吹奏楽部が出演し、4、6年生は鑑賞しました。

午前は、鶉鷺小学校、大社小学校、日御碕小学校、窪田小学校、須佐小学校、佐田中学校（吹奏楽）、大社中学校（吹奏楽）の発表がありました。最初の鶉鷺小学校は、全校児童の7名全員が太鼓を演奏し、とても迫力のあるものでした。大社小学校の子どもたちは、交流学习でおなじみの鶉鷺小学校子どもの演奏を食い入るように見ていました。



大社小学校の5年生は、2番目の出場でした。薄暗くしたステージに、ボレロの曲の笛を吹きながら両袖から一列で入場し隊形をつくるのが、とても決まっていた。ボレロの演奏と Smile Again の合唱の両方とも5年生が心を込めて行っており、とても素晴らしかったです。

また、大社小学校の吹奏楽の演奏も素晴らしく、他校の先生方からは「大社小学校の演奏はすごいですね。中学生レベルです。」という絶賛の声を聞きました。

他校の演奏や合唱も素晴らしく、また、演奏などを聴く態度もよく、本当によい連合音楽会だったと思います。

5年生の皆さん、吹奏楽部の皆さん、お疲れ様でした。



## 島根県社会科教育研究大会

11月25日（金）に大社小学校で第31回島根県社会科教育研究大会出雲大会が行われました。



本校では、第3学年～第6学年の1組が授業公開をしました。県内から約120名の先生方がおいでになり、授業を見たり、授業

についての分科会に参加され話し合いをされました。

本校では、3年前から研究主題を「豊かなかわり合いの中で、ともに学び、自らの見方・考え方を高めていく子どもの育成 ～社会科、生活科における地域素材の教材化を通して～」とし、社会科、生活科を窓口として研究に取り組んできました。

研究の柱を次の3つにしています。

①地域素材を効果的に活用し、自ら学ぶ力をつける。



②単元構成を工夫して主体的に問題解決する力をつける。

③話し合いを通して意思決定する力をつける。

3年生は、かまぼこ工場の見学をもとに工場が一番大切にしておられることをみんなで考え話し合いました。そして、最後にゲストティーチャーとして工場の方の話を聞きました。

4年生は、大社でブドウづくりを始めた人々について詳しく調べ、ブドウづくりが始まったところをスタートとし、現在をゴールとしたすごろくづくりを通して、先人たちの苦労について考えたり発表したりしました。

5年生は、自然災害発生時における情報ネットワークについて調べたり市役所の方から話を聞いたりしたのち、防災ネットワークシステムのより有効な活用についてみんなで話し合いました。

6年生は、神門通りの開発の様子を実際に調べ、神門通りを活性化するための考えについて話し合い、クラスの意見を集約しました。そして、最後に市役所のまちづくり推進課の方の話を聞きました。



子どもたちは、多数の先生方に取り囲まれた状態で緊張気味でしたが、友達の意見をよく聞きながら自分の考えを頑張って発表していました。

授業を公開した学級の皆さん、お疲れ様でした。

## 生命尊重について

今年の6月に3年生以上を対象に生活アンケートを実施しました。その中で「亡くなった人が生き返ることがあるか？」についての結果は、下記のとおりでした。

約8%の子どもが、「ある」「どちらかといえばある」と答えていました。

亡くなった人が生き返ることがある	
ある	10
どちらかといえばある	6
あまりない	27
ない	147

この数値を多いと

単位（人）

みるか少ないとみるかは、それぞれですが、10年近く前の県内外の調査では、2～3割の子どもが「ある」「どちらかといえばある」と答えていました。家で生き物を飼っている子どもは、「ない」と答えている割合がとても高かったそうです。

市の教育委員会でも「生命を考える教育」を重点として取り上げ取り組んでいます。学校でも道徳や学級活動、理科、生活科、体育、給食指導、全校朝礼などの場でも取り上げ、生命尊重について指導しています。

命は、この世にたった一つのもので、大切なものです。自分の命を大切にするとともに、他の人や動物などの命も大切にしたいと思います。

御家庭での御協力をお願いいたします。